

## 平成30年度 英語が好きになる学校づくり事業 取組報告書

事務所名	盛岡	学校名	紫波町立古館小学校	TEL	019-672-3560
------	----	-----	-----------	-----	--------------

英語によるコミュニケーション能力を身につけた児童の育成  
～表現する楽しさを実感できる場の工夫を通して～

### 【ねらい】

外国語の授業改善及び教員の指導力向上に向けた、全校体制での組織的な取組の在り方を、研究実践を通して明らかにする。

### 【具体的な取組】

#### 1 はじめに

本校の学校教育目標は、「夢にむかって あかるく かしこく たくましく」～Follow your Dreams, Be Bright, Clever and Strong～である。これは、児童一人一人が、夢に向かって、周囲の人々への思いやりの心もち、学び続け、心身ともに自らを鍛えていくことを目標としている。この目標の具現化に迫るためには、周囲の人々と積極的に関わり合い、コミュニケーションを図ろうとする能力の育成が重要である。また、社会は、グローバル化を遂げる一方であり、児童は、将来国際社会の一員として生きることを求められていくと予想される。

そのような中で、国際社会の標準言語である英語によるコミュニケーション能力を培っていくことは、次代を担う人材の育成に必要な不可欠であると考える。

いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において

- ① 相互関係を深める。
- ② 共感する。
- ③ 人間関係やチームワークを形成する。
- ④ 正解のない課題や経験したことのない問題について、
  - ア 対話をして情報を共有する。
  - イ 自ら深く考える。
    - 相互に考えを伝え、深め合う。
    - 合意形成・課題解決する。

<コミュニケーション能力の定義(教育WG)>

#### 2 目指す児童像のイメージ

本校では、目指す児童像を『表現する楽しさを実感できる子ども』と設定し、日々の授業改善に取り組んでいる。各学年における児童像の具体は、下記の通りである。

学 年	児童像の具体
低学年	体を使って英語を楽しむ子ども
中学年	口を動かして英語を楽しむ子ども
高学年	心を動かして英語を楽しむ子ども

#### 3 効果的なモジュール学習の組み方、位置づけ、実施内容、他の教育課程との関わり

本校では、2020年度開始の新学習指導要領完全実施へ向けて(5・6年生の英語年間時数70時間、週当たり2コマとなる)、週1コマ+週3コマのモジュール学習(短時間学習)を実践し、時数の確保及び通常の45分授業とモジュール学習との効果的な関連の在り方についての実践と検証を行っている。

##### (1) 指導の実際

##### ① 活動時間

モジュール学習は、週3コマを基本とし、次のとおりに時間を設定している。

(1コマ15分×週3回=45分 を年間35週)

② 活動形態

5・6年生とも学年単位で実施し、それぞれの学級担任が役割を分担しながら実践している。

③ 学習内容

市販のDVD教材“SWITCH ON! 1～2”，リズムボックスを活用した，WC1～2，HF1～2で学習する基本構文や語彙を用いたオリジナルチャンツ，HFPLUSの学習シート（ライティング）を基本に，「誰が担任でもモジュール学習に取り組める」ことを目標としている。また，モジュール学習をより有効に活用するために「授業に連動した活動」の展開を目指し，教材開発を行うとともに，モジュール学習の充実を図っている。

④ モジュール学習の展開

モジュール学習を実践する目的としては，「予習」，「復習」，「予習と復習」を兼ねた3種類が考えられるが，授業との連動を考え，「予習と復習」を1単位時間に組み込んだ形で実践している。

(2) モジュール学習の成果と課題

- 単元のゴールを明確にし，授業との連動を考えたモジュール学習を展開することで，児童が安心して45分の授業に参加できた。
- 外国語に接する機会を多くすることで，外国語に対する抵抗感を軽減することができた。また，学習内容の理解を深めるとともに既習事項を生かした新しい学習に取り組むことができた。
- 単元のゴールを見据え，児童のコミュニケーション活動及び発表に必要な不可欠な定型文をモジュール学習に位置づけられるような指導計画を作成する必要がある。
- 授業との内容に関連をもたせながらも，書く活動やゲーム，チャンツ等，多様な内容を取り入れ，児童が意欲をもってモジュール学習に参加できるよう計画していく必要がある。



<オリジナルチャンツで語彙を増やす場面>

(3) 授業者の感想

- ① リズムボックスを活用したオリジナルチャンツの効果が大きく，児童に英語のリズムが身についていると感じている。
- ② 年間計画及び単位時間の指導計画に沿って学習を進めることができているが，今後は新教材に対応した教具等を準備していきたい。

(4) 児童の感想

- ① 短時間だけど，モジュール学習は自信がつくから続けてほしい。
- ② 英語の授業の前にモジュールで勉強するので，予習みたいになっていて内容が分かりやすい。
- ③ オリジナルチャンツなどもあって楽しく英語の学習ができる。

4 コミュニケーション場面の設定

コミュニケーション能力育成のため，単位時間内に友だちや教師とやりとりできるようなコミュニケーション場面を位置づけるように日々の授業を計画している。授業の導入場面では，児童と教師とで体調や天候，その日の食事についての簡単なやりとりを行い，ウォーミングアップを図るようにしている。また，授業の導入時に既習の表現を活用し，児童間で簡単なやりとりを行うことにも挑戦している。



C1:Hello.  
 C2:Hello.  
 C1:What TV program do you like?  
 C2:I like ○○.  
 C1:Me too./Oh,○○.  
 C1:See you.  
 C2:See you.

など

(1) 相手意識をもたせるキーワード

本校では，コミュニケーション活動を行う際の視点として，下記の5点をあげている。

- ① Speak clearly (はっきりとした声で)
- ② Happy face (笑顔で)
- ③ Attitude (前向きな態度で)
- ④ Respect (思いやりをもって)
- ⑤ Eye contact (相手の目を見て)



※イングリッシュルームに掲示し，意識化を図っている。

これらの言葉は、英語に限らず、コミュニケーションを語る上で非常に大切なことであり、すべての教育活動につながるものであると考えている。そこで、活動前後や活動中にデモンストレーション等で、5つの視点の大切さを分かりやすく繰り返すことで、児童が常に意識化できるように努めている。

## (2) 自己選択や自己表現の場の設定

児童が主体的に活動に参加するために、パターンプラクティスの活動ばかりではなく、自己選択の場面を取り入れて単元計画及び展開案を作成するようにしている。例えば、6年生が行った基本の構文(Where did you go? I went to the~. I enjoyed~ing.)を活用しながら、夏休みに自分が行った場所や楽しんだことをやりとりする活動や発表(Spoken production)の場面を設定し、友だちの前で自己表現する活動もコミュニケーション力の向上に役立つと考えている。



<夏休みの思い出のやりとり>

C1:Hello.

C1:How was your summer vacation?

C1:I went to~. I enjoyed~.

I ate~. It was fun.

Thank you. See you.

C2:Hello.

C2:I went to~.I enjoyed~.

I ate~. It was fun.

How about you?

C2:See you.



<夏休みの思い出発表>

C1:Hello. My summer vacation is fun.

I went to Lake Tazawa.

I enjoyed camping.

And I ate curry and rice.

It was yummy.

Thank you.

## (3) 英語使用の日常化の取組

本校ではイングリッシュルームで授業を行っており、様々な資料や掲示物などで英語学習の環境を整えている。また、イングリッシュルーム外の掲示スペースを活用して、各学年の英語学習の様子を写真で紹介したり、使用構文を掲示したりするなど、英語使用の日常化に向けた雰囲気をプロデュースしている。

### ① 教材・教具の整備と保管

掲示用カードやゲーム用カードを作成したり、ICT機器を活用した歌やゲーム等を用意したりすることで、児童が積極的にコミュニケーションを図ったり、自己表現したりすることができるようにしている。

カード等は、使用テキストのレッスンやジャンルごとにクリアホルダーに入れてイングリッシュルームに保管している。また、ICT機器を活用したゲーム等は、イングリッシュルームのPCにフォルダを作成し、データを保存しておくことで、すべての学年ですぐに活用できるようにしている。



<HF 1~2カード>



<WC 1~2カード>



<イングリッシュルーム掲示>

### ② 主体的に英語を使用する場の設定

英語を実際に使ってみる機会を、学校生活の中に意図的に設定することは、授業で十分にインプットしてきた内容をアウトプットしてみる場として、非常に有効である。さらにそれが、児童の主体性が発揮される活動であれば、学校全体が英語の雰囲気に包まれ、さらに効果的であると考えている。

ア 英語での給食メニュー紹介(金曜日:給食委員が日本語でメニューを読み上げた後、放送委員が英語でアナウンスする)



<給食メニュー放送原稿>

Now, today's school lunch.

Summer vegetable curry and rice.

Milk, tomato omelet, broccoli salad.

Sounds good.

Have a nice weekend! Thank you.

イ 児童集会での全体遊び（「ジャンケン列車」を英語で行い、1年生から6年生までの約450名が、授業で学習してきた英語ジャンケンを繰り返し、チャンピオンを決める遊び）

＜全体遊びの進め方＞

- ①児童会リーダーの合図でジャンケンを行う。 “Are you ready?”
- ②「ロックペーパーシヤースhoot」のかけ声で、元気よくジャンケンする。 “Rock paper scissors, shoot!”
- ③負けた人は、勝った人の後ろにつながっていく。 “Yeah! / I won.”
- ④ジャンケンを繰り返し、列が一行になるまで続ける。



ウ 英語の月の歌（係のリードによって歌う）

**Mary Had A Little Lamb**  
**Mary had a little lamb**  
**little lamb, little lamb,**  
**Mary had a little lamb,**  
**Its fleece was white as snow.**

Twinkle, twinkle, little star  
**Twinkle, twinkle, little star**  
**How I wonder what you are**  
**Up above the world so high**  
**Like a diamond in the sky**  
**Twinkle, twinkle little star**  
**How I wonder what you are**

※音楽委員会で「6月の歌」に設定し、各学級の朝の歌や児童朝会で歌うこととした。  
 ※音楽の教科書に掲載されている曲や低学年でも知っている曲を選択している。

エ English Alley（図工室前の廊下を英語ゾーンに指定し、そこでは英語であいさつを交わす）



＜ALT との朝のやりとり＞

＜会話例＞

A: Hello.  
 B: Hello.  
 A: How are you?  
 B: I'm good. And you?  
 A: I'm hungry. See you.  
 B: See you. など

③ 校内の環境作り

校内の英語環境作りは、潜在記憶レベルで効果があると考えている。低学年が主に使用する階段には、動物名等を掲示し、高学年が主に使用する階段には、職業名等を、そして全校児童が使用する階段にはアルファベット A から Z で始まる食べものを掲示し、日常的に文字にふれられるような仕組みとした。また、職員室を始めとした特別教室等にも英語名のプレートを表示し、英語の日常化を図っている。



＜低学年階段＞



＜高学年階段＞



＜中央階段＞



＜音楽室＞

5 パフォーマンス評価等、様々な評価方法の実践

小学校「外国語」の評価については、「英語を用いて答えられた・答えられなかった」を振り分けるのではなく、全ての児童が「達成感・成就感」を感じ、気持ちが前向きになるような評価を行っていく必要がある。そのような場面と切り離し、語彙・構文・語順などの知識を問う評価スタイルはなじまない。パフォー

マンス評価の際には、「ゆっくりはっきり」とした明瞭な音声で問うこと、聞き返しを許容すること、相手の理解の様子に合わせて分かりやすく繰り返すこと、イラストや写真と結びつけたり、自らの表情・ジェスチャーを添えたりすることなど、通常のコミュニケーションで必要な努力を、児童・テスト双方とも行うべきであると考えている。

そこで、評価を行う際には、身につけた知識や技能を活用できるようなコミュニケーション場面を設定し、ALTやHRT等との1対1でのコミュニケーション場面にするなど、「英語を用いて何かができた」と感じ、達成感をもてるような評価を行っている。

### (1) パフォーマンス評価の成果と課題

- 身につけた知識や技能を活用できるようなコミュニケーション場面を設定し、ALTやHRT等との1対1でのコミュニケーションを行うことで、「英語を用いて何かができた」という達成感をもたせることができた。
- 「振り落とし」や「差別化」を図るのではなく、課題をクリアした成就感とモチベーションアップを狙ったパフォーマンス評価ができた。
- パフォーマンス評価の際に再チャレンジの機会を設定したことにより、ほとんどの児童をA評価まで引き上げることが可能となった。
- パフォーマンス評価の持ち方、評価規準の共通理解を図るために、評価者の事前打ち合わせ・評価のシミュレーション等が必要不可欠である。
- 場面や形態に即したパフォーマンス評価の持ち方について再考する必要がある。

### (2) テスターの感想

- ① 児童が主体的に取り組もうとする姿勢が素晴らしく、小学校英語で目指す姿に近づいていると感じた。
- ② 対話場面をいくつか設定し、やりとりさせてみることで、子どもたちが身につけた力を見取ることができるといい機会だった。
- ③ ほどよい緊張感の中、子どもたち一人一人が既習の内容を活用し、一生懸命活動している姿に子どもたちのがんばりが感じられた。

### (3) 児童の感想

- ① 単語を見ているだけでも読めるようになりました。アルファベット文字の筆順を守って将来就きたい職業を書くこともできました。日常会話では、「曜日」と「日付」の尋ね方が似ているため、前は間違えてしまったけど、今回は正しく答えられました。
- ② はじめは心配だったけど、思ったより答えられたのでよかったです。自分の将来の夢を英語で書くことができたのでよかったです。「話すこと・聞くこと」で〇〇さんや△△さんが笑顔で取り組んでいたのいいなと思いました。次の英語の時間もがんばりたいです。
- ③ 今回は、話すことが難しかったけど、あきらめずにできたのでよかったです。「書くこと」は、自信がなかったけど、大・小文字を意識して丁寧に書くことができました。



〈読むこと・書くことの評価場面〉



〈聞くことの評価場面〉



〈話すことの評価場面〉



〈振り返りの場面〉

## 【成果】

### 1 成果

- ① 成就感とモチベーションアップをねらったパフォーマンス評価の実施
- ② 授業との連動を考えたモジュール学習の展開
- ③ 学年間の系統性を考えた年間計画の作成
- ④ 相手意識をもたせるキーワードの意識化
- ⑤ 学んだ英語をアウトプットする場の設定
- ⑥ 英語指導に前向きに取り組む学級担任の増加

### 2 今後の取組

- ① Let's Try!, We Can!の活用実践の蓄積
- ② モジュール学習の目的の明確化と効果的な指導方法の在り方
- ③ 場面、形態に即したパフォーマンス評価の持ち方についての再考
- ④ 英語使用の日常化を図ることができるような環境の醸成